

「清水こぐまの会」がスタートしました



5月18日(火)、未就園児とお母さん方の子育てサークル「こぐまの会」の入会式が、2階の遊戯室で行われました。

今年度は12組のお母さんと子どもたちが入会しました。お母さん方が順番に自己紹介をして、1年間の予定などを確認しました。そのあと少しの時間ですが子どもたちが思い思いに遊んで、第1回目のこぐまの会は終了

しました。コロナ禍の中、短い時間でしたが、お母さん方が、実際に顔を合わせてお話をする機会をもつことができ、本当に良かったと思っています。

清水幼稚園のような福島市立の「公立幼稚園」は、地域のみなさんのための幼児教育の施設です。子育ては、とても大変なことです。地域のお母さん方が、様々なひととのかかわりの中で楽しく子育てができるよう、幼稚園を活用していただければ、こんなうれしいことはありません。こぐまの会のネットワークがさらに広がっていくといいなと思っています。

絵本を読んでもらうということ

最近読んだ絵本を紹介します。『つるかめ つるかめ』という絵本です。(中脇初枝・文 あずみ虫・絵 2020年 あすなろ書房)



人は昔から自分の力ではどうしようもないことが起きたときには、「くわばら くわばら」とか「ちちんぷいぷい」とか、「おまじない」を唱えてきました。そうやって生きてきました。そのおまじないが書いてある絵本です。本文は全部で162文字。絵を見ながらゆっくり読んでも5分で読めます。そんな短い絵本ですが、ページをめくって行って、最後ページの「なにが あっても だいじょうぶ だいじょうぶ」まで読むと、心が少し軽くなったような気がしてきます。涙が出そうになります。素敵な絵本です。

子どもにとって絵本を読んでもらうということは、「大人が自分のために時間をくれる」ことだと、鷺田清一という先生が新聞に書いておられました。絵本を読んでもらうことを通して、大人に大事にされたという感覚は、その子の中にずっと残っていくと思います。

これからも絵本の読み聞かせを大切にしていきたいと思っています。